

累乗根と大小比較

n を自然数とすると、3つの数

$$a = \sqrt[5]{1 + \frac{1}{n}} - 1, \quad b = 1 - \sqrt[5]{1 - \frac{1}{n}}, \quad c = \frac{1}{5n}$$

の大きさを比較せよ。

< '02 名古屋大 >

【戦略1】

ひとまずは「アタリ」をつけたいところです。

試しに $n=1$ とでもしてみると

$$a = \sqrt[5]{2} - 1, \quad b = 1, \quad c = \frac{1}{5}$$

です。

少なくとも、 a, c は $1 (=b)$ より小さいことは分かるでしょう。

$a+1$ と $c+1$ の大きさを比較してみると、 $\sqrt[5]{2}$ と $\frac{6}{5}$ との勝負です。

つまり、 $2 \left(= \frac{2 \cdot 5^5}{5^5} \right)$ と $\left(\frac{6}{5} \right)^5 \left(= \frac{6^5}{5^5} \right)$ との勝負です。

$2 \cdot 5^5 = 5^4 \cdot 10 = 6250$, $6^5 = 7776$ なので、 $2 < \left(\frac{6}{5} \right)^5$

ここから、 $\sqrt[5]{2} < \frac{6}{5} \Leftrightarrow a+1 < c+1 \Leftrightarrow a < c$ と言えるため、

$$a < c < b$$

と予想がつかます。

$$\begin{aligned} a < c &\Leftrightarrow \sqrt[5]{1 + \frac{1}{n}} - 1 < \frac{1}{5n} \\ &\Leftrightarrow \sqrt[5]{1 + \frac{1}{n}} < 1 + \frac{1}{5n} \\ &\Leftrightarrow 1 + \frac{1}{n} < \left(1 + \frac{1}{5n} \right)^5 \end{aligned}$$

と示すべき不等式をほぐしていくと、二項定理が決め手となりそうです。

(解答ではこれを逆算的に記述します。)

一方、

$$\begin{aligned} c < b &\Leftrightarrow \frac{1}{5n} < 1 - \sqrt[5]{1 - \frac{1}{n}} \\ &\Leftrightarrow \sqrt[5]{1 - \frac{1}{n}} < 1 - \frac{1}{5n} \\ &\Leftrightarrow 1 - \frac{1}{n} < \left(1 - \frac{1}{5n} \right)^5 \\ &\Leftrightarrow 1 - \frac{1}{n} < 1 - \frac{1}{n} + {}_5C_2 \left(\frac{1}{5n} \right)^2 - {}_5C_3 \left(\frac{1}{5n} \right)^3 + {}_5C_4 \left(\frac{1}{5n} \right)^4 - \left(\frac{1}{5n} \right)^5 \\ &\Leftrightarrow {}_5C_2 \left(\frac{1}{5n} \right)^2 - {}_5C_3 \left(\frac{1}{5n} \right)^3 + {}_5C_4 \left(\frac{1}{5n} \right)^4 - \left(\frac{1}{5n} \right)^5 > 0 \end{aligned}$$

と示すべき不等式をほぐしていきます。

(もちろん、解答ではこれを逆算的に記述します。)

【解1】

$$\begin{aligned} \left(1 + \frac{1}{5n} \right)^5 &= 1 + {}_5C_1 \cdot \left(\frac{1}{5n} \right) + {}_5C_2 \cdot \left(\frac{1}{5n} \right)^2 + {}_5C_3 \cdot \left(\frac{1}{5n} \right)^3 + {}_5C_4 \cdot \left(\frac{1}{5n} \right)^4 + \left(\frac{1}{5n} \right)^5 \\ &> 1 + {}_5C_1 \cdot \left(\frac{1}{5n} \right) \quad (\because n \text{ は自然数}) \\ &= 1 + \frac{1}{n} \end{aligned}$$

よって、 $1 + \frac{1}{5n} > \sqrt[5]{1 + \frac{1}{n}}$, すなわち $\sqrt[5]{1 + \frac{1}{n}} - 1 < \frac{1}{5n}$

これより、 $a < c$

一方、

$$\begin{aligned} \left(1 - \frac{1}{5n} \right)^5 &= 1 - {}_5C_1 \cdot \left(\frac{1}{5n} \right) + {}_5C_2 \cdot \left(\frac{1}{5n} \right)^2 - {}_5C_3 \cdot \left(\frac{1}{5n} \right)^3 + {}_5C_4 \cdot \left(\frac{1}{5n} \right)^4 - \left(\frac{1}{5n} \right)^5 \\ &= 1 - \frac{1}{n} + \frac{10}{25n^2} - \frac{10}{125n^3} + \frac{5}{625n^4} - \frac{1}{3125n^5} \\ &= 1 - \frac{1}{n} + \frac{10}{25n^2} \left(1 - \frac{1}{5n} \right) + \frac{1}{625n^4} \left(5 - \frac{1}{5n} \right) \\ &> 1 - \frac{1}{n} \quad (\because n \text{ は自然数}) \end{aligned}$$

よって、 $1 - \frac{1}{5n} > \sqrt[5]{1 - \frac{1}{n}}$, すなわち $\frac{1}{5n} < 1 - \sqrt[5]{1 - \frac{1}{n}}$

これより、 $c < b$

以上から、

$$a < c < b \quad \dots \square$$

【戦略 2】

目がチカチカする累乗根の部分を

$$p = \sqrt[5]{1 + \frac{1}{n}}, \quad q = \sqrt[5]{1 - \frac{1}{n}}$$

とおいてしまいます。

すると、 $p^5 = 1 + \frac{1}{n}$ なのですが、 $p^5 - 1$ が

$$(p-1)(p^4 + p^3 + p^2 + p + 1)$$

と因数分解できるため、

$$\begin{aligned} \frac{1}{n} &= p^5 - 1 \\ &= (p-1)(p^4 + p^3 + p^2 + p + 1) \\ &> (p-1)(1+1+1+1+1) \\ &= 5(p-1) \end{aligned}$$

となり、 $p-1 < \frac{1}{5n}$ ($\Leftrightarrow a < c$) を得ます。

一方、 $q^5 = 1 - \frac{1}{n}$ であり、

$$\begin{aligned} \frac{1}{n} &= 1 - q^5 \\ &= (1-q)(1+q+q^2+q^3+q^4) \\ &< (1-q)(1+1+1+1+1) \\ &= 5(1-q) \end{aligned}$$

となり、 $\frac{1}{5n} < 1 - q$ ($\Leftrightarrow c < b$) を得ます。

【解 2】

$$p = \sqrt[5]{1 + \frac{1}{n}}, \quad q = \sqrt[5]{1 - \frac{1}{n}} \quad \text{とおくと,} \quad \begin{cases} a = p - 1 \\ b = 1 - q \\ c = \frac{1}{5n} \end{cases} \dots \textcircled{1}$$

$$\text{また,} \quad \begin{cases} p^5 = 1 + \frac{1}{n} \dots \textcircled{2} \\ q^5 = 1 - \frac{1}{n} \dots \textcircled{3} \end{cases}$$

② より、

$$\begin{aligned} \frac{1}{n} &= p^5 - 1 \\ &= (p-1)(p^4 + p^3 + p^2 + p + 1) \\ &> (p-1)(1+1+1+1+1) \quad (\because p > 1) \\ &= 5(p-1) \end{aligned}$$

ゆえに、 $p-1 < \frac{1}{5n}$ で、① より $a < c$

一方、③ より

$$\begin{aligned} \frac{1}{n} &= 1 - q^5 \\ &= (1-q)(1+q+q^2+q^3+q^4) \\ &< (1-q)(1+1+1+1+1) \quad (\because 0 \leq q < 1) \\ &= 5(1-q) \end{aligned}$$

ゆえに、 $\frac{1}{5n} < 1 - q$ で、① より $c < b$

以上から、

$$a < c < b \dots \textcircled{\square}$$

【戦略3】

形から相加平均・相乗平均の関係をインスピレーションすると、ウソのように沈みます。

【解3】

$1 > 0$, $1 + \frac{1}{n} > 0$ より、相加平均・相乗平均の関係から

$$1+1+1+1+\left(1+\frac{1}{n}\right) \geq 5 \sqrt[5]{1 \cdot 1 \cdot 1 \cdot 1 \cdot \left(1+\frac{1}{n}\right)}$$

等号成立は $1 = 1 + \frac{1}{n}$ のときだが、これはあり得ない。

よって、等号は成立することがなく

$$5 + \frac{1}{n} > 5 \sqrt[5]{1 + \frac{1}{n}}$$

すなわち、 $1 + \frac{1}{5n} > \sqrt[5]{1 + \frac{1}{n}}$ ($\Leftrightarrow \sqrt[5]{1 + \frac{1}{n}} - 1 < \frac{1}{5n}$)

ゆえに、 $a < c$

一方、 $1 > 0$, $1 - \frac{1}{n} \geq 0$ より、相加平均・相乗平均の関係から

$$1+1+1+1+\left(1-\frac{1}{n}\right) \geq 5 \sqrt[5]{1 \cdot 1 \cdot 1 \cdot 1 \cdot \left(1-\frac{1}{n}\right)}$$

等号成立は $1 = 1 - \frac{1}{n}$ のときだが、これはあり得ない。

よって、等号は成立することがなく

$$5 - \frac{1}{n} > 5 \sqrt[5]{1 - \frac{1}{n}}$$

すなわち、 $1 - \frac{1}{5n} > \sqrt[5]{1 - \frac{1}{n}}$ ($\Leftrightarrow \frac{1}{5n} < 1 - \sqrt[5]{1 - \frac{1}{n}}$)

ゆえに、 $c < b$

以上から

$$a < c < b \dots \square$$

【総括】

ひとまずは、 $a < c < b$ であるという予想は立てたいところです。

示すべきことをほぐしていき、決め手を探しに行く【解1】

目に突き刺さる5乗根を置き換えてしまい、目に優しく処理することを考えた【解2】

このあたりが現実的な路線だと思われます。

【解3】は観賞用の解答と言ってよいでしょう。